

CBC NEWS LETTER

Vol.10, No.2, Nov.2009



国立大学法人
小樽商科大学ビジネス創造センター

ニューズレター [Vol.10, No.2]

INDEX

1. 「北洋銀行ものづくりテクノフェア2009」に出展しました
2. 金融問題シンポジウム・第5回三大学地域共同研究センター定期情報交換会が開催されました
3. 「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト成果報告会」を開催しました
4. CBC主要日誌
5. 投稿案内

1

「北洋銀行ものづくりテクノフェア2009」に出展しました

8月21日(金)に「北洋銀行ものづくりテクノフェア2009」(於:札幌コンベンションセンター)に出展しました。このフェアは「優れた技術や製品を有する中小企業、大学、支援機関等が一堂に会する場を提供し、販路拡大や企業間連携の促進、情報交換や技術交流等を通じて、北海道のものづくり産業の振興を図る。」(開催概要より)ものです。約140の企業・団体・大学等の出展があり、来場者は約3,000人でした。

ビジネス創造センターでは、リアルな情報をバーチャルで提供する双方向型地域情報サービスi-vacs(近藤ゼミ運営)のほか、ビジネス創造センターの取組みについて紹介しました。

ブースでは近藤研究部主任、海老名センター長、大津副センター長、i-vacsを運営する学生2名らが来場者に説明を行いました。来場者からは、さまざま質問、提言などが寄せられていました。

(ビジネス創造センター)



2

金融シンポジウム・第5回三大学地域共同研究センター情報交換会が開催されました

「金融問題シンポジウム」

平成21年9月12日(土)13:30~17:00 ふくしま中町会館7階大会議室

福島大学・滋賀大学の地域共同研究センターとの共催。

地域の身近な問題を取り上げ、各センターの研究成果を広く紹介するのが目的で、三大学共同によるシンポジウム開催は、昨年の小樽に続き2回目になります。

今回は「地域社会における金融機関の社会的役割について」をテーマとして、講演・パネルディスカッションが行われました。

地元金融機関から3名の講師を招き、それぞれ30分程度の講演がなされました。豊田猛夫氏(日本銀行福島支店長)は、地元金融機

2

関は金融仲介機能を強化する必要があると述べ、これを受けて北村清士氏(東邦銀行取締役頭取)は、地元金融機関として地域密着型金融を推進し、企業のライフサイクルに応じた支援を重視したいと述べました。

続く黒澤勇氏(福島信用金庫理事長)も、協同組織金融機関として中小企業の金融支援、地域の活性化支援を積極的に行うと述べるなど、業種を超えた地域金融のあり方について問題提起をしました。

パネルディスカッションには、CBC研究部スタッフである齋藤一郎教授(商学研究科アントレプレナーシップ専攻)がコメンテーターとして参加、伝統的な預貸業務にベースに置きながらも、金融ビジネスモデルを再考する必要があると述べました。さらに、金融問題は人づくりの問題であり、実物経済を支える人材育成が必要であると述べ、会場から活発な意見を引き出すきっかけとなりました。

齋藤教授は最後に、地域金融機関は取引関係を通してコミュニティを結節する位置にある。その意味では、地域経済において人づくりの風土を創り出す先導役を担っているという認識が必要と締めくくり、会場から大きな拍手を受けていました。



大学地域共同研究センター定期情報交換会

平成21年9月12日(土)9:00~12:00

ふくしま中町会館6階特別会議室

福島大学・滋賀大学・小樽商科大学の地域共同研究センター相互の情報交換を目的として、各センターが持ち回りで開催しており、今回で5回目を数えています。

各センターが最近の活動について発表し、意見交換と情報共有を行うもので、CBCからは副センター長の大津准教授(商学部社会情報学科)が、「地域連携キャリア開発(通称マジプロ)」の取り組みについて発表しました。

学生のキャリア教育の一環ながら、学生が地域で活動することで、これを応援する市民との交流の場が生まれ、地域から協力が得やすくなるなど、地域活性化の好循環が生まれつつあると紹介しました(活動の詳細は今号の別記事を参照のこと)。

他大学からは「学生の移動にかかる経費はどう捻出しているのか?」など、より踏み込んだ内容の質問もあり、この取り組みに関する関心の高さが感じられました。

他にも、滋賀大学産業共同研究センターの野本センター長からは、中小企業向けの出前MOT活動について、同センターの山本客員教授からは、地域資源である綿織物を活用した「地域ブランド創出プロジェクト」について、同センターの山崎教授からは、「公共経営イブニングスクール」「地域活性化プランナーの学び直し塾」について、それぞれ発表がありました。

福島大学地域創造支援センターの丹治副センター長からは、12金融機関や9市町村との連携協定や、同センターと生涯学習センターとの統合について、今井地域連携グループリーダーからは、県内に5ヶ所あるサテライトの現状について、それぞれ発表がありました。

両センターの特色ある取り組みは、今後の活動の参考にしたいと考えています。



3

「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト成果報告会」を開催しました

ビジネス創造センター(CBC)が活動を支援する「平成21年度商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(マジプロ2009)」の成果報告会が、11月1日(日)に運河プラザ3番庫で開催されました。この報告会は、平成21年度から開講されている本学のキャリア教育科目「地域連携キャリア開発」の最終発表会を兼ねており、ビジネス創造センター主催の平成21年度地域活性化セミナーとの共催でもあります。

会場には、50人程度の市民が集まり、学生の活動を分かりやすく展示したポスターの前で直接学生たちと議論したり、まちなか活性化に取り組んだ3チームそれぞれのテーブルで催されたワークショップに参加して、活発に意見を交えたりする姿が多く見られました。

また当日の参加者には、グランドパーク小樽さまと(株)花月堂さまのご協力により、「ホッケのコロッケ」と「豆乳プリン」の試食品が提供され、学生の発案と地域の企業の協力が目に見える具体的なかたちとなり報告会に華を添えました。

今年度のマジプロの成果報告会は、つぎの2つの点で昨年度と大きく異なっています。まず、昨年度のマジプロの参加メンバーが、最初から最後まで報告会の企画・運営を取り仕切ったことです。昨年度のメンバーのうち12名が、報告会だけでなくプロジェクト開始から今年度のメンバーのサポート役となって各チームの活動を支援し、今年の20名の大きな力になっただけでなく、後輩たちのサポートとプロジェクトの運営に携わることで、本事業の趣旨や学生が主役となった地域連携の意義についてより理解が深まったようです。

もう一点は、報告会の進行方法に一方向的なプレゼンテーション形式ではなく、市民参加型のポスターセッション/ワークショップ形式を採用したことです。これは、「もっと学生さんと意見交換をしたかった」という昨年の参加者の声を反映させたもので、実際に発表する学生にとっても、当日どんなコメントが飛び出すか分からない緊張感と、学生よりもむしろ熱い市民の本気を感じる事ができた意義深い企画でした。

日 時： 11月1日(日) 14時～17時(開場13時半)

場 所： 小樽運河プラザ三番庫(色内2-1-20)

参加費等：無料・事前登録不要・入退場自由

次 第：

(1)「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト」実施概要報告

(2)実践課題班によるポスターセッション

・小樽ご当地グルメの開発 ・小樽スイーツの開発

・小樽物産ネットショップの広報戦略

(3)新規課題(まちなか活性化)班によるワークショップ

・手宮を中心としたフットパスの提案について ・小樽の商店街でのイベント提案について

・小樽への学生移住計画について

(4)試食・デモ

(5)まとめ・意見交換

「マジプロ2009」の6チームによる成果報告の内容は以下の通りです。

※「小樽のご当地料理開発」チーム

小樽の地域特性を活かした家庭料理「小樽ごはん」とコンセプトにして、「ホッケ」を素材に3つのメニューを考えました(ホッケのコロッケ、ホッケのから揚げ、ホッケのピヤベース)。発表会では、グランドパーク小樽さまのご協力により、試食会で最も好評だった「ホッケのコロッケ」を提供します。

※「小樽のご当地スイーツ開発」チーム

和と洋の感覚をミックスした新しいスイーツを6種類考案し、(株)花月堂さまの協力をいただいて、そのうち3つの試作にこぎ着けました(豆乳プリン、フルーツおはぎ、キャラメルどら焼き)。発表会では、花月堂さまの協力により、試食会で最も好評だった「豆乳プリン」を提供します。

※「物産品ネットショップ」チーム

このほど開店した小樽物産のネットショップ「小樽家族」の普及促進について検討してきました。数多ある「地域物産ネットショップ」のなかで、いかに小樽家族を知ってもらい、どうすれば多くの人に利用してもらえるか、検索上位に食い込むための工夫や、ブログや携帯電話を活用したPR方法など、若い感覚を活かした戦略の提案をします。

※「手宮を中心としたフットパス提案」チーム

手宮線跡地を中心としたエリアの活用策について検討してきました。市民に愛着をもって利用され、観光ルートとしても魅力的なフットパスの整備計画を通じ、運河北側への動線拡大と時間消費を促すため、効果的な案内板の配置などを含めた提案をします。

※「小樽の商店街でのイベント提案」チーム

小樽の夜を楽しめるための方策について検討してきました。商店街を中心としたエリアで、学生も楽しめるような夜のイベントを開催することで、小樽の夜の魅力を高めながら、商店街に学生を呼び込む企画について提案します。

※「小樽への学生移住計画」チーム

小樽商大の学生がもっと小樽に根を下ろし、地域の一員になるための方策を検討してきました。最終目的は「学生の小樽移住」ですが、現代の商大生の生活実態を調査した結果、移住にはかなり高いハードルがあると気付かされました。まずは学生の小樽での滞在時間を増やすため、学生のライフスタイルを考慮した時間消費の工夫について提案します。



CBC主要日誌（平成21年6月1日-21年11月14日）

CBC運営委員会	
6月	『平成20年度 ビジネス創造センター研究活動報告書』発行
6月11日(木)	第3回主任会議
6月20日(土) -21日(日)	第8回産学官連携推進会議(於:京都国際会館)大津副センター長、田中総務部主任、佐藤コーディネーター、蔵重研究協力係長参加
7月 1日(水)	第1回学生論文賞委員会
7月 2日(木)	第4回主任会議
7月 7日(火)	商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト2009中間報告会(於:小樽経済センター)
7月14日(火)	第3回運営会議 審議事項:教員選考委員会足に伴う選考委員の選出について
8月21日(金)	北洋銀行ものづくりテクノフェア2009(於:札幌コンベンションセンター)出展
8月27日(木) -28日(金)	第22回国立大学法人地域共同研究センター専任教員会議全国大会(於:岩手県花巻市)近藤研究部主任、今野助手参加
9月 1日(火) - 4日(金)	小樽商科大学シニアアカデミー2009 海老名センター長講師
9月10日(木)	第4回運営会議(持ち回り) 審議事項:委託事業の受入について
9月12日(土) -13日(日)	金融問題シンポジウム・第5回三大学・地域共同研究センター定期情報交換会(於:福島県福島市)大津副センター長、齋藤一朗研究部スタッフ(コメンテーター)、佐藤コーディネーター、富樫コーディネーター、蔵重研究協力係長参加
10月 8日(火)	第5回主任会議
10月 8日(火)	第5回運営会議(持ち回り) 審議事項:平成21年度予算執行実績調書(第2次上半期執行済)の提出について
10月29日(木) -30日(金)	第21回国立大学法人共同研究センター長等会議(於:横浜)大津副センター長、木村情報資料部主任参加
11月 1日(日)	商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト2009最終成果報告会(於:運河プラザ)
11月 2日(月)	第2回学生論文賞委員会
11月 4日(水)	学生論文賞プレゼン説明会
11月11日(水)	学生論文賞第1次(プレゼン)審査
11月12日(木)	第6回主任会議

投稿案内

ニュースレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿、問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが、投稿原稿の採否、掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

- 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター
Eメール: cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp

編集後記

このたび小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)のニュースレターVol.10, No.2を発行することができました。これも関係各機関・各位のご協力の賜であります。より充実したニュースレターにするために、今後ともみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(情報資料部)

国立大学法人
小樽商科大学ビジネス創造センター (CBC)
〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号
事務室 TEL 0134-27-5290
FAX 0134-27-5293
Eメール cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp
ホームページ <http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc>